

# 生理学・薬理学CBT対策補習

科目責任者：神 作 憲 司 (生理学), 藤 田 朋 恵 (薬理学)

## I. 前 文

共用試験CBTは、臨床実習開始前の学生が、臨床実習で医行為を行うために必要な知識を身に付けているかを、全国共通の標準試験によって厳正に評価する試験である。医師国家試験に準じる重要な試験で、令和5年からは公的化される。臨床実習をするためにはCBTに合格しなければいけない。しかし、多くの必修科目（講義、演習、実習合わせて25科目）の勉強がある中、不合格になる学生は少なくない。CBT問題は、医学教育モデル・コア・カリキュラムの項目に対応して出題され、約20%は基礎から、約68%は臨床の病態生理、診断、治療からなる。

本科目では、基礎の生理学・薬理学と臨床の病態生理、治療について補習し、その習得に役立てる。

## II. 受入可能人数

人数は制限しない

## III. 担当教員

神 作 憲 司 (生理学), 野 元 謙 作 (生理学), 藤 木 聡一郎 (生理学), 藤 田 朋 恵 (薬理学)

## IV. 学習内容

事前学習と当日の座学からなる。学生は、事前に配信された問題を講義前までに目を通し、できる問題を解答しておく。講義当日は、教員により答え合わせと解説をする。問題は、教員によりCBTプール問題集などから選ばれる。生理学2回、薬理学4回、全6回の予定。

## V. 学修の到達目標

「CBTの成績が本学の定める当該年度の合格基準に達する。」

「医学教育モデル・コア・カリキュラムの生理、薬理、病態生理、治療に関連する内容を習得する。」

## VI. 成績評価の方法・基準

生理学：「マークシート方式の客観試験（約20問）」

薬理学：「マークシート方式の客観試験（約20～30問）」

出席点

を合わせて、65点以上を合格とする。

## VII. 使用する教材・資料など

・クエスチョン・バンク CBT 最新版vol. 1～5

・生理学：生理学の講義シラバスに記載している指定教科書または参考書、レジュメ

・薬理学：薬理学Ⅰ、Ⅱの講義シラバスに記載している指定教科書または参考書、レジュメ

## VIII. 質問への対応方法

生理学：随時受け付ける。dokkyo-physiol2@dokkyomed.ac.jp

薬理学：随時受け付ける。fujita-t@dokkyomed.ac.jp

## IX. 求められる事前学習、事後学習及びそれに必要な時間 ※（ ）は所要時間の目安

事前学習：事前に配信された問題を可能な範囲で解答する。(20分)

事後学習：事前配信された問題をすべて解答する。(20分)

X. コアカリ記号・番号

生理学：C-2-1～3, D-1～14-1

薬理学：C-3-3, F-2-8

XI. 課題（試験やレポート）に対するフィードバックの方法

事前学習問題の解説は講義内で行う。試験問題のフィードバックは行わない。

XII. 卒業認定・学位授与の方針と該当授業科目の関連

\*◎：最も重点を置くDP    ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能，種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い，他者に説明することができる。	◎
	種々の疾患の診断や治療，予防について原理や特徴を含めて理解し，他者に説明することができる。	◎
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け，正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け，患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け，患者やその家族，あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	○
	書籍や種々の資料，情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し，自らの学修に活用することができる。	○
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち，専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち，実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し，自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け，自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け，他者との関係においてそれを活かすことができる。	